

文化・教育常任委員会 管外調査
令和元年 11 月 12 日から 14 日

1 福岡 e スポーツ協会（福岡県福岡市）

【調査事項】

e スポーツの認知・普及活動について

【調査目的】

京都スタジアムに設置される「VR・e スポーツセンター」の今後の取組の参考とするため、同協会が取り組む e スポーツの認知・普及活動について調査する。

【調査内容】

同協会は、e スポーツがスポーツとして認知されるよう普及・啓発するとともに、e スポーツを通じて、さまざまな立場の人の交流や心身の健全な発達を促し、スポーツ文化の発展に寄与することを目指し設立された。e スポーツ普及イベントの開催や、大会主催者へのサポート等を行っている。

背景として、福岡市では「福岡ゲーム都市宣言」を行っており、同市の誘致により e スポーツの国際大会が開かれるなど、行政がゲーム産業の振興に積極的に取り組んできた環境がある。

e スポーツを取り巻く状況は、2022 年にアジア競技大会の正式種目に選定予定であり、2026 年には愛知県でも国際大会が実施される動きがあるなど、e スポーツが今後メジャーになっていくことが予想される。

同協会は、「スポーツにも適正、適量、効果的な練習があるように、協議人口が増えていくのであれば、子どもたちが正しく e スポーツに取り組めるように広めていく必要性を感じた」ことにより、行政とタイアップしながら各種の活動を進めている。

大会の実施や学校の部活としての練習をサポートすることによって、子どもたちに対して、きちんと目標を設定してあげることが必要であるとのことだった。

【主な質問事項】

- ・対象の年齢層について
- ・ゲーム内容に対する規制について
- ・行政が普及させる意義について
- ・京都ならではの普及アイデアについて など



概要説明を聴取

2 e スタジアム福岡（福岡県福岡市）

【調査事項】

e スポーツ体験施設「e スタジアム福岡」の概要について

【調査目的】

京都スタジアムに整備予定のe スポーツ施設の参考とするため、福岡最大級のe スポーツ体験施設である同施設について調査する。

【調査内容】

2019年2月にオープンした同施設を運営するエンターフォース株式会社は、各種e スポーツ事業や、ポップカルチャーを主にしたエンターテインメント事業を扱っている。

同施設は、e スポーツプレイヤーに有料で練習環境を提供しているほか、月に数回は、e スポーツのコミュニティイベントや全国大会の九州の予選会場として活用されている。様々なイベントやゲームタイトルの大会に対応ができ、海外のe スポーツプレイヤーも訪れる施設である。

同施設をオープンさせた理由としては、「日本でのe スポーツ普及の課題として、練習や大会のための施設が少ないこと、また、エンターテインメント性が足りないという問題点を感じたため」とのことだった。

利用者は若者が多く、高額な機器を購入して練習することが難しいため、低額な料金で利用できることに好評を得ている。

「野球やサッカーのスタジアムと同様に、e スポーツプレイヤーの活動の受け皿として、施設を利用するコミュニティやチームを活性化したい」という思いで施設を運営しているとのことだった。

【主な質問事項】

- ・大会の種類について
- ・e スポーツの部活動について など



概要説明を聴取

3 福岡県立福岡農業高等学校（福岡県太宰府市）

【調査事項】

実践力向上につながる教育について

【調査目的】

実社会における実践力を高めるための教育の参考にするため、実践的・体験的な学習を通して将来のスペシャリストを育成する同校の取組について調査する。

【調査内容】

同校は、開かれた学校を目指して地域との交流に積極的に取り組むだけでなく、生徒自らが商品開発や商談実習を行い、将来のスペシャリストに必要なスキルを身につけるための教育に力を入れており、第33回時事通信社「教育奨励賞」優良賞を受賞している。

同校の特徴として、多様な交流を促進するための地域との交流事業により、毎年2万人超が学校を訪れている点がある。各種イベントを実施し、生徒が幅広い年齢層と接することにより、コミュニケーション能力の養成を図っている。

実践力向上のための取組としては、太宰府市の全面協力のもと、生徒が「太宰府の梅」の収穫から一次加工までを行い、地元企業の協力の上で、太宰府の梅を使用したポテトチップスや梅サイダー等の商品開発を行っている。売り上げの一部は市に寄贈され、観光振興や梅園の環境整備に役立てられており、生徒の活動が地域振興への貢献に繋がっている。

その他、家庭と農業に関する学科が連携して、生徒達が専門の学習内容を活かして、新郎新婦のドレスやケーキを手作りする「福農HAPPY WEDDING」にも意欲的に取り組んでいるとのことだった。

【主な質問事項】

- ・ 県からの補助金について
- ・ 連携先の企業について
- ・ 対象となる学年について
- ・ 商品の発案について など



概要説明を聴取



生徒自らが開発した商品を紹介

4 安芸高田市議会（広島県安芸高田市）

【調査事項】

神楽の魅力発信及び次世代継承への取組について

【調査目的】

本府における伝統芸能の保存・継承の参考とするため、「ひろしま安芸高田神楽」の魅力発信及び次世代継承への取組について調査する。

【調査内容】

同市では、古くから伝統芸能としての神楽が盛んに伝承されてきた。市内には22の神楽団があるが、少子化により担い手が減少する中、神楽ドームの設立や東京公演・神楽甲子園といったイベントの開催などを通じ、広域にわたり積極的な発信・活用を実施している。

同市には、湯治村のような懐かしい町並みを再現した「神楽(かぐら)門前(もんぜん)湯治(とうじ)村」が整備されている。敷地内に2,000人を収容可能な「神楽ドーム」が設立され、神楽団が持ち回りで公演している。舞殿である神楽殿と千畳敷の広さの観客席をもった全国でも例のない神楽専用の施設である。気軽に神楽を鑑賞でき、神楽門前湯治村の門前通りには土産物店や料理屋が軒を連ね、露天風呂や神楽の魅力を紹介した神楽資料館も併設されている。

神楽ドームでは、日本各地で伝統芸能・神楽を継承する高校生が集い、日頃の練習の成果を発表する「神楽甲子園」が、これまで9回実施されており、運営についても、高校生が積極的に参画しているとのことだった。

【主な質問事項】

- ・神楽の担い手の人数について
- ・神楽門前湯治村の雇用状況について
- ・衣装に対する行政の補助について など



概要説明を聴取



神楽ドームを視察

5 岡山芸術交流実行委員会（岡山県岡山市）

【調査事項】現代アートの祭典「岡山芸術交流2019」の取組について

【調査目的】

本府における文化芸術振興の参考とするため、現代アートの祭典「岡山芸術交流2019」の取組について調査する。

【調査内容】

世界的な現代アーティストの作品による現代アート展である、「岡山芸術交流2019」は、岡山城・後樂園周辺の複数の歴史・文化施設において開催される。

岡山芸術交流は3年に一度開催されており、2回目である今回は、約1か月にわたり9カ国18作家の作品、約40点を展示する。コンセプトは「歩いて楽しむ」「資源を活かす」「世界を見る」「人を育む」とし、岡山市や岡山県、岡山商工会議所、地元企業など官民で組織された実行委員会が実施し、AIや科学技術を駆使した作品が集結されている。

美術展に付随する事業として、県内の小中学生がアートに触れる機会を増やしてもらうため、美術館に来場する際のバス代等の費用を一部負担したり、学校で現代アートに関する出前授業を実施したりしている。

芸術祭は大きく「里山型」と「都市型」に二分されるとのことだった。過疎地域の複数自治体にまたがる広域で開催する「里山型」に対し、岡山芸術交流は、都市の公立美術館を主会場にする「都市型」に該当する。

都市型芸術祭の目的の一つに、都市の文化度向上による都市ブランドの構築がある。岡山芸術交流の実施の背景には、以前から「岡山市の『顔』が見えない」との声を耳にするという課題があり、美術展を岡山市の認知度向上に繋げたいとの狙いがあるとのことだった。

【主な質問事項】

- ・ 芸術家との契約形態について
- ・ 行政が実施する意義について
- ・ 芸術家との折衝について など



作品を視察



概要説明を聴取

6 大阪府立西成高等学校（大阪府大阪市）

【調査事項】

高校内居場所カフェの取組について

【調査目的】

高校生の不登校・中退の未然防止の参考とするため、同校における高校内居場所カフェの取組について調査する。

【調査内容】

居場所カフェとは、学校・教職員との連携のもとで、福祉・相談の専門的な知見を持つ支援機関や地域のボランティアが、学校内に生徒の「居場所」としての「カフェ」を開設するものである。学校や家とは違う、生徒にとっての第3の居場所として、居場所カフェのスタッフとのコミュニケーションを通じ、生徒が抱える課題の早期発見や不登校の未然防止への効果が期待される。

居場所カフェは、2012年に西成高等学校で始まり、近年、全国で広がりを見せている。西成高校の居場所カフェは、開始当初から一般社団法人Officeドーナツトークが運営している。放課後や昼休みなどに飲み物や軽食を用意して生徒がくつろげる環境を整え、生徒を出迎える。家庭の事情等で朝食を抜く生徒が多いため、居場所カフェで朝食を用意することもある。教室への登校をためらう生徒であっても、居場所カフェで過ごすことで、その後、教室に向かえるケースもあるとのことだった。

居場所カフェの取組は、課題を抱える生徒の早期発見や登校の動機づけに有効だとし、大阪府教育委員会では、居場所を設置する府立高校の運営団体へ助成を行っており、スクールソーシャルワーカーの配置と併せて、令和元年度当初予算において約3,500万円を計上しているとのことだった。

【主な質問事項】

- ・人材配置について
- ・居場所カフェに行けない生徒への対応について
- ・今後の展開について
- ・エンパワメントスクールの取組について など



概要説明を聴取



居場所カフェを視察